

山形大学人文学部国際学術講演会

ナスカとパルパの地上絵と社会 〈考古学研究の最前線〉

Geoglyphs and Society in Nasca and Palpa: Recent Advances in Archaeological Research.

2014年 2月22日(土) 午後1時～5時

会場: 山形大学 (小白川キャンパス) 基盤教育2号館 222教室

一般公開 (参加無料 / 申込不要 / 定員: 300名 [先着順])

使用言語: 日本語、英語 (通訳あり)



○山形駅東口より東方約2キロ○山形駅東口より徒歩約25分○山形駅東口より県庁前行きバスで約5分・南高前(山大入口)下車10分○仙台駅前より山形行き高速バスで約60分・南高前(山大入口)下車10分 ※山形～仙台間の高速バスは平白76便、土日・祝日66便運行しています。



ペルー南海岸ナスカ地域および
パルパ地域における最新の調査成果に基づいて、
当時の社会の実態および地上絵をめぐる
研究の最前線を提示します。
ナスカ期だけでなく、その前後の時期に制作された
地上絵、神殿、居住地、鉱山といった
様々な遺跡調査から、
当時の社会組織や環境変化といった
幅広いテーマについて論じます。
長年、地上絵の保護活動に貢献してきた
楠田枝里子氏による特別講演を予定しています。

特別講演

「ナスカと私」楠田 枝里子 (司会者・エッセイスト)



一般講演

マルクス・ラインデル
Markus Reindel (ドイツ国立考古学研究所)
「ペルー南部パルパ地区における気候変動と居住地・地上絵に対する影響」
(日本語通訳あり)
Climate Change and its Impact on Settlements and Geoglyphs in Palpa, South of Peru

クリスティーナ・コンリー
Christina A. Conlee (テキサス州立大学)
「ナスカの儀礼と宗教: 2千年間の変化」
(日本語通訳あり)
Two Thousand Years of Ritual Practices and Religion in the Nasca region of Peru

ケヴィン・ボーン
Kevin Vaughn (パデュー大学)
「周縁からみたナスカ社会: 村落と鉱山からの新たな視点」
(日本語通訳あり)
Nasca Society from the Periphery: New Perspectives from Villages and Mines

坂井 正人
(山形大学)
「ナスカの地上絵と社会変化」

お問い合わせ先 — 山形大学人文学部事務室 山形市小白川町一丁目4-12 TEL023-628-4203

主催: 山形大学人文学部

共催: 国立民族学博物館 科学研究費補助金基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(研究代表者: 国立民族学博物館教授・関雄二)、
科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」(研究代表者: 茨城大学教授・青山和夫)、頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「ナスカ地上絵の学際的研究における次世代研究者養成とネットワーク構築」(研究代表者: 山形大学教授・坂井正人)
協力: 古代アメリカ学会